

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472800343		
法人名	社会福祉法人 玖珠会		
事業所名	グループホーム 笑みの里 ②		
所在地	大分県玖珠郡玖珠町大字大隈322番地の2		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成26年6月5日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成26年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様が安心・安全に過ごして頂ける様に、職員間の情報の共有とチームケアに徹し、自己決定の出来る様にコミュニケーションを密にとり、自分らしくのびのびと生活出来る様に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・食堂より見えるホームの前の田園や遠くの山々の風景に四季の移り変わりが見え、入居者の入居前の生活や思い出の回想ができる。
 ・廊下やホールの見えるところに本人のやる気を起こされるレクリエーションの用具が何気なく置かれている。
 ・職員一人ひとりが理念に基づき、利用者本位の支援がなされている。
 ・利用者の在籍年数は長く、100歳を超える方も皆さんと同じ食事をしっかりと食べられている。
 ・地域との連携や協力体制が充分なされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内の目立つところに掲載し、常に理念実地に向け取り組んでいる。	利用者が墨で書いた理念がホーム内のいたるところに貼られ、職員トイレにも理念、運営規定が貼られ、管理者と職員は常にその理念を共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域との交流を深める為、月に一度の地域住民の方達との交流会を実地している。	地域のボランティアによる週1回のリハビリ音楽、地域の方への月1回のお茶会のお誘いに毎回10人ほどの参加があり、その時、野菜や漬物、デザート等の差し入れがあり有意義な交流がなされている。地域の方の介護予防にもつながっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事に積極的に参加して頂き、地域と施設との関係づくりに取り組んでいる。(新年初舞会・夏祭り・防災非難訓練・施設運動会)への参加		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では日々の活動状況等の報告を行い、評価結果についても報告し、そこで出た意見はサービス向上に活かしている。	利用者の状況や報告だけでなく、毎回テーマを決め掘り下げた内容が話し合われている。参加した利用者や家族の意見や要望が出され、運営や支援に活用されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	随時の連絡や行き来する機会をつくり、行政と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議に介護保険課、包括の職員の参加が毎回あり入居者の状態把握や困難事例のアドバイス、制度変更の説明等協力体制ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設研修等において身体拘束をしないケアへの取り組みを理解し、実践している	研修の年間テーマを「身体拘束」について行っている。同じ内容を2回行い、職員全員が研修を受けられるように配慮されている。ロールプレイを取り入れ介護職員の気づき、利用者の気持ちの理解の深まりが見られる、スピーチロックや職員のストレスケアも視野に入れた取り組みがなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修において、繰り返し学ぶ機会を設け、職員間で常に話し合い、虐待防止へ取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行う事で、学ぶ機会を持ち活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を無さず際には、必ず読み上げて説明し、理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、家族等が意見のある時には、電話対応時に対応者が管理者、職員に報告を行い、面会時には玄関脇に意見箱を設置しており、家族会等で意見の収集を図って運営に反映させている。	玄関に常にアンケート用紙が置かれ、面会時に気付いたことや要望を投稿できるように投稿箱が置かれている。春、秋の家族懇親会で会食をしながら、利用者、家族より意見要望を聞き、運営や支援に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を開催して職員の意見や提案を聞く機会を設けている、又、ミーティングを開催し常に職員の意見を出して貰い反映している	毎月の職員会議、毎朝の申し送りミーティングでの意見、気づき、提案を聞き、運営や日々の利用者への支援の方法に取り入れられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理を取り入れており、各自が向上心を持って働けるように努めている。個人の資格取得には事業所も支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や力量にあった法人内外の研修会への参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム日田玖珠連絡協議会という同業者が集まり、研修会や交流会を行う場があり、参加してサービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談のあった時には、じっくりと聞く姿勢で対応し、困っていること不安なことを受け止め、安心した生活が送れる様に支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から細かい情報収集を図り、サービスを導入する段階で家族と連携を取り、ケアの向上に努め、不安解消を図る。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容を精査し、他の専門機関等と連携を取り、本人・家族が満足できるような支援を図る		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員全員が、入居者のケアについて学ばせて頂き、共に支えあい築きある関係作りを目指し対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等に参加してもらえよう機会を多くつくり、共に支えていけるよう関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に通っていた美容院・理容院に行ったり、友人にも面会に来て貰える様に支援している。	毎週行われるリハビリ時に他の参加者が地域からの入居者やデイ利用者と馴染みの交流ができ、昔のこと、現況の話を楽しみに参加されている。地域の馴染みの理容室、美容院でも他のお客さんとの交流ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、気の合う者同士が過ごせる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、家族との関わりを必要としている方との相談や支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービスに捉われぬ、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。希望・意向の把握に努め、困難な場合には、その時の本人の状態に合わせ本人本位に検討している。	センター方式のケアプランにより、本人、家族の意向、要望が把握されている。困難事例には、より深く家族と話し合い、本人の状態や思いに寄り添うように検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時など詳しく、本人・家族に聞き取りを行い把握するように努めている。入所してからは実際に観察し、心身状態と現状の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は常に一人ひとりの心身状態を把握し、申し送り等で情報共有し個別サービス記録に記入する事で現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の意向、家族の意向を取り入れ、個々の特性を考慮した介護計画を作成し、随時モニタリングを行っているほか、状態変化のある時にはカンファレンスを行い柔軟な見直しやプラン変更を行っている。	職員を担当制にして、入居時のアセスメントで本人、家族の意向や要望を聞き、介護計画を作成している。また、日々の生活の中からの気づきや本人の要望を随時取り入れたモニタリングを行い、その状況に即した計画書が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護計画を元にケアを実践し日中夜間共に毎日の様子を具体的に記録し、全職員が情報の共有をしながら実践し介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われぬ、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に対応出来る柔軟性を持って、サービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方やボランティア活動の受け入れを行い入居者と共に楽しんで頂けるような支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関を優先している。家族が可能なら入居者様の受診してもらっている。	母体病院とも良好な関係ができており、必要に応じ、専門医への連携がスムーズにできている。家族の受診付添ができない場合は職員が付き添い、家族に状況報告をしている月1回母体医師による回診があり、常に利用者の健康状態の把握がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の看護ステーションや法人の協力病院と連携を行っていて連絡・報告も密に取れる体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院の際には、病院へ足を運び早期に退院出来るよう、情報交換や相談を行い、病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時において重度化した場合や、終末期についての話し合いを十分に行い、かかりつけ医との連携のもと方針を共有し支援に取り組んでいる。	入居時のアセスメントに本人、家族の要望が記録されている。重度化について特養への受け入れ可能との話で、家族は安心感を持たれている。体調の悪化に対してはその都度、家族、かかりつけ医、職員との話し合いで方針を決め支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を重ねていく事で急変、又は事故発生時に備え、とっさの時のマニュアルを掲示し初期対応のくねれんを行い十分に身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の防災避難訓練を行い、年に一度は消防署・警察署・地域の住人と連携を保ち協力体制を整えている。	毎月1回のグループホームでの避難訓練、年2回の法人全体の避難訓練、そのうち1回は夜間に消防署、警察、消防団約20名、2地域住民約40名の参加の訓練が行われている。備蓄もあり非常時の備えが出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の特性を理解・受容し、尊厳を守り入居者様一人ひとりに合わせた対応している。	職員一人ひとりが本人の気持ちになり、トイレへ誘導も本人のしぐさや動きに何気なく誘うような本人を尊重した声かけを行っている。入浴も一人ひとり個別に入浴し、拒否する人には無理じいせず、本人の気持ちに寄り添う対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取り、本人様の思いを引き出し、自己決定できる様な支援を働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の体調や気分をいち早く察知し、一人ひとりのペースを大切に有意義な一日を過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服をお聞きしたり、時には化粧を促したりと身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している、また希望の行きつけの理美容院へ行ける様努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは入居者様の意向を取り入れ決めている、準備・片付けも一緒に行い、検食者が入居者様と一緒に食事を摂り楽しんでる。	各ユニットでそれぞれの入居者に合わせたメニューで職員による調理がなされ、利用者の気分に合わせて一緒に準備や片付けがなされている。メニューだけでなく盛りつけにも季節を感じられる食事時間も個々に合わせてゆっくり食事ができる配慮がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量は個人日誌に記載して、情報の共有し対応出来るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声掛けや見守り程度で対応しているが、それぞれに合った口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりのパターンを理解し、出来る限り自立した排泄を促し、声掛けや誘導を行っている。	各時の居室トイレの排泄チェック表を活用し、排泄パターン、動きやしぐさにより声かけ誘導でトイレでの排泄の自立支援を行っている。自立者には必要時のみ支援を行い、排泄自立の維持を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘に対し理解しており、食事メニューに繊維質の多い野菜を取り入れたり、乳製品等に対応し下剤に頼らない様に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調やタイミングを見計らい、希望に合わせて入浴が出来るよう支援している。	浴槽の選択ができ、安心して気持ちよく入浴できるように個々に合わせた湯温で1番風呂を感じさせる配慮がなされている。入浴嫌いの方も週3回の入浴を基本に、体調や気分に合わせて声かけを行い入浴の支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日その日の体調に合わせて状況に応じて、安息や安眠への支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個別の状態、病状、を把握する事で服薬の理解は十分行っており、体調の変化については医師との連携にて支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事への参加や施設でのレクリエーションや家事参加支援において気分転換や意欲を出して頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の行事やご家族の意向に沿い外出は積極的に促し、日常的にも外気欲や日光浴など支援している。	季節毎の外出の他に、個人的な買い物、洋服、し好品などの外食、地域の催しへの参加支援、天候に合わせて常にホームの周りの散歩や外気浴を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の夏祭り行事や外出時に本人がお金を所持し、使用できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば事務所の電話で対応している。手紙などは年賀状や暑中見舞いなど計画をたて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、利用者が不快や混乱を招くような刺激のないように配慮し、観葉植物や手作り作品を置き、心地よく過ごせるような工夫をしている。	各ユニットに2か所の中庭があり明るく、庭には植え木鉢やつくばいが置かれ、観葉植物や季節の花に四季を感じられる。共用の居間には利用者の思いが墨で書かれ、ホーム生活への思いが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々に椅子テーブルを配置し利用者同士で思い思いに過ごせる居場所づくりの工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込んで頂き、本人が居心地よく過ごせる工夫をしている	本人、家族と話し合い、自宅で使用していた物や思い出の品が持ち込まれ、自宅の部屋と同じようなあつらえがなされている。タンス、炬燵、屏風、家族の写真、人形、お位牌等、一人ひとりに合わせた心地良い居室作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりがわかり易い様に表札を掲げたり、生活の場に危険のない様。環境を整備する事に努め、安全な自立した生活が送っていただけるような工夫をしている。		